

日立卓上型電子顕微鏡 Miniscope® TM4000Plus II で見る世界

6月5日（水）に株式会社日立ハイテクサポート様に、リモートで1年生の理科の特別授業をしていただきました。

『見えないものを見てみることで どんな世界が広がるか 確かめる』

今年も、株式会社日立ハイテクサポート 山根瑞葵 さん（本校7期卒業生）と本年度より、伊藤愛梨さんも加わり理科の特別授業が始まりました。まずは、クイズ形式のポップなスライドで、生徒は正解だと思うものに手をあげたり、答えを聞いて声をあげたりして、楽しく授業が進みました。紹介された電子顕微鏡は、見るものを10万倍に拡大でき、1円玉を10万倍にすると、東京スカイツリー3塔分の高さと同じになるそうです。

中身がつかないヨーグルトのふたや、刺したとき痛くない注射針の仕組みは？それぞれ「凸凹したハスの葉の表面」「刺されたことに気付かない蚊の口先」の形を真似ていることを知りました。スクリーンで巨大な蚊の口の写真を確認し、自然から学び創り出されたテクノロジーは、生物模倣技術（バイオミメティクス）というのだと学び、その耳慣れない言葉を声に出してしていました。

進行が変わると、株式会社日立ハイテク 寺田 大平 様から、実際の卓上型電子顕微鏡の紹介がありました。コンビニのお弁当の透明なふたの中にゴムを混ぜており、ゴム一つに対して、髪の毛100分の1の大きさだという説明に驚きの声が上がっていました。

後半は、4月に入社したばかりの、本校の卒業生と横浜の特別支援学校の卒業生が、メッセージをくださいました。

卒業生Iさん「在学中にメモを取ることを練習したのが役に立っています。ワープロ検定や情報処理検定を頑張って受けておくと良いです。」、横浜の方「メモには、手順・ポイントを書いて、見返すことが大事です。付せんを貼ったり、色を変えたりすると見やすいです。誰でもときどき不安になることもあると思いますが、経験を積むことで自信になります。」

生徒は、アドバイスが始まるとすぐにメモ帳を開いて、素直にうなずきながら書いていました。頼もしい先輩の姿は、憧れとともにこれから成長していく良い道しるべになりました。

【理科教育支援活動の詳細は、株式会社日立ハイテク様の理科教育支援専用ページをご覧ください。

URL <https://www.hitachi-hightech.com/jp/science-edu/>】

